

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	産学連携によるITスキル標準型教育プログラムの開発・実証		
学校法人名	学校法人宮崎総合学院		
学校名	宮崎情報ビジネス専門学校		
代表者	川越 宏樹	担当者・連絡先	岩村 聡志 iwamura@msg.ac.jp

<事業の概要>

産学連携体制により四年制課程における高度 IT 人材育成のための教育プログラムを開発した。IT 業界の人材ニーズへの直結を図るべく、宮崎県内の IT 企業に対する人的ニーズ調査の結果や IT スキル標準に対する検証を踏まえながら、カリキュラムとモデル教材の具体化を進めた。モデル教材では、実践力の養成を狙いとして、アクティブラーニング (Active Learning) 方式という四年制課程ならではの教育手法を軸に内容が組み立てられている点に特徴がある。事業の推進を通して、IT 業界の期待に応え得る本格的な四年制課程の教育モデルを構築し、広く提示することを目的とした。

<成 果>

IT プロフェッショナルのスキル指標である「IT スキル標準」に対する検証や調査研究のアウトプットを踏まえることによって、IT 業界の人的ニーズに対応した実践的なカリキュラムと教材を具体化することができた。

カリキュラムは、ハイレベルな IT 人材育成を狙いとする四年制課程における教育体系である。これまでの専門学校教育の特色であり、かつ強みでもある資格取得教育をベースとし、その上に実務現場で要求されるスキルを修得するための科目群が系統的に設定されている。つまり、従来の二年制課程との整合性・相互運用性にも配慮された設計であり、二年制課程と四年制課程のフレキシブルな運営も可能な内容となっている。今後、多くの専門学校が四年制の学科を併設するようになるものと予想されるが、このカリキュラムはそのようなケースの参考事例となるはずである。

一方、教材はアクティブラーニング方式を軸とした実践指向の演習教材である。具体的には、二年制課程で修得する実装技術や要素スキル、製品技術を土台として、システム開発実務の一連の工程に係るスキルを、主体的な取り組みを通して修得する内容構成となっている。これまで専門学校教育では取り上げることが難しいとされてきた要求分析フェーズについてもしっかりと焦点が当てられた演習が設定されており、先駆的な試みとなっている。